

2020年 5月1日  
NPO法人 森を再生する会

## 水源の森を守ろう！ 取り戻そう！

### — 目次 —

・令和元年11月台風19号被害

1 P

・森づくり講座概要

2 P

・会員の声 5 P  
・こぼれ話 6 P  
・令和2年度活動計画 8 P  
・寄付のお礼 8 P

## 令和元年11月台風19号被害

神谷輝幸

令和元年11月11日～12日にかけて関東、東北地方を襲った台風19号は140か所で堤防が決壊、河川が氾濫、全壊家屋3081棟、死者99人、土砂災害935件と山間部にも大きな被害を与えました。その原因は、短時間の記録的大雨によるとの報道がされていました。

国土交通省では、今後の対策として、

「○将来の気候変動の影響による降雨量の増加等を考慮した治水計画に見直すとともに、流域全体でハード・ソフト一体になってあらゆる対策を総動員する治水対策へ転換が必要」としています。そして具体的な方策として、堤防整備・強化、遊水機能の保全、ダム建設・ダム再生をあげています。これはいかにも国土交通省らしい発想です。ダムの再生を取り上げても、「森の再生」は一言も出てきません。

私たちは、自然生態系豊かな森こそ緑のダムの機能を果たす最大の武器であり、健全で強靱な国土をつくる一番大切なことであると実践を通して伝えてきました。

私たちは、「荒れた人工林を生態系豊かな森に再生することが国土を守る」ことを念頭に、行動します。



# 森づくり講座概要

とき：令和1年10月27日 13:00

ところ：アグリステーションなぐら

講師：吉野知明先生

令和元年度の植樹の後、アグリステーションなぐらで食事のあと、「森を再生する会の森づくりの意義」について講義をいただきました。その概要を紹介します。

NPO森を再生する会  
市民で作る水源の森

令和元年10月27日

エスベックミック株  
吉野知明

色づくイタヤカエデ  
段戸園有林（10月）



◆2019年9月9日関東上陸15号台風の被害として、山林の倒木被害がありました。直接的要因は瞬間最大57.5m/sの暴風でした。

林業家たちは放置されたスギ林は、病気（溝腐れ病）が蔓延していても赤字覚悟での林業経営できないという意見。。

生態学者は森林管理には木材生産だけでなく

防災視点も必要という意見が出されました。

◆森を再生する会では、2011年から市民レベルでできる放置林管理に取り組んできました。

2015年

## 巻きがらし間伐方法の確立



直径の7倍の長さまで  
樹皮を剥く  
「7倍皮剥ぎ」  
1年で枯れ、2年程度  
で葉が落ちる。

樹皮を地面に落とすと  
滑りやすいので  
つけたまま

### この5年の成果

1. 巻きがらし間伐の簡便な手法の採用
2. 巻きがらし間伐の確実な枯死を確認
3. 照度の改善を確認
4. 保存木の肥大成長を確認
5. 実生の定着や下層植生の成長を確認
6. 食害により植栽木は衰退

→階層構造は発達できない。

→土壌形成もあまり期待できない

### 今後の展望 2015年

1. 下層植生の充実を図りたい

①天然更新実生の活着把握②草本植物種の生育実態把握③草食獣の忌避樹種の植栽④主要樹種の食害からの有効な保護策の検討

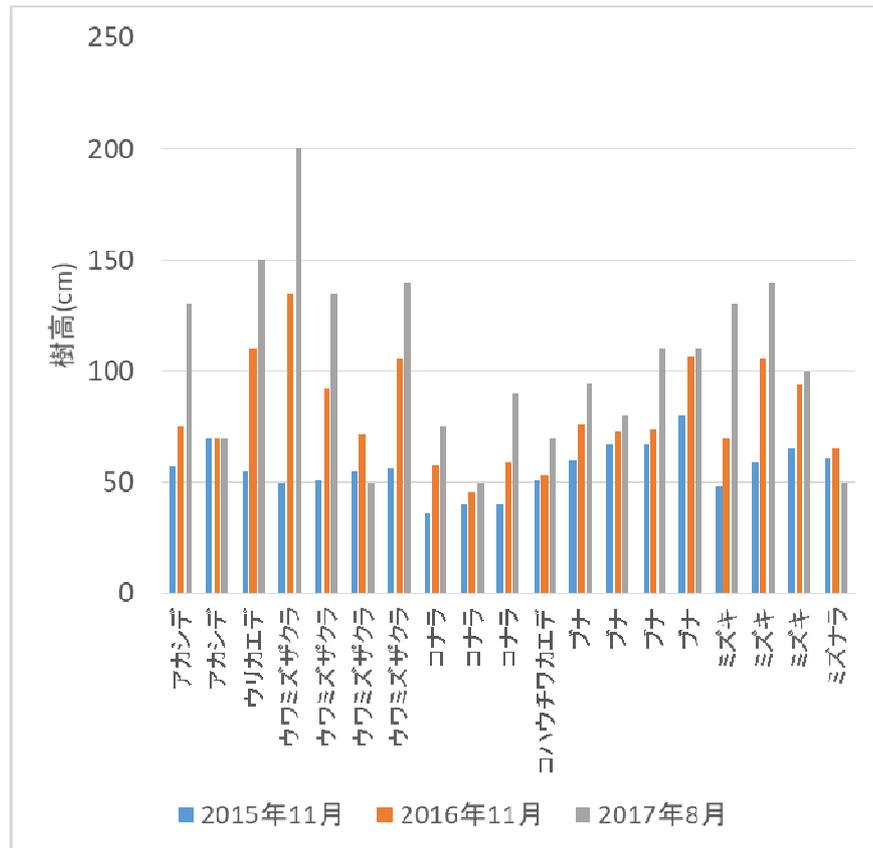
2. 線香林の巻きがらし間伐推進放置されている場所を改善

◆森を再生する会では、2014年から食害に対しても防護方法を検討してきました。



◆ 食害軽減

成長を確認



◆ 2018年サプリガード設置

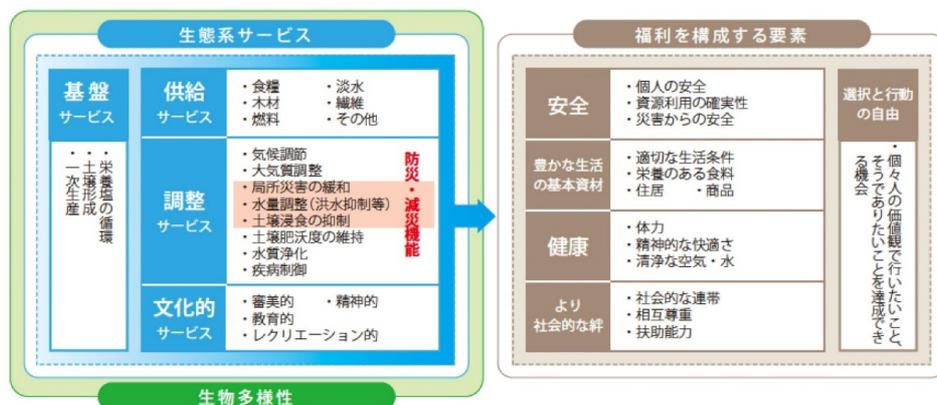


水源の森に必要なこと  
 →①豊かな森林表土の醸成②下層植生の食害の軽減③森づくり活動の継続・継承④活動の一般周知や協力

◆ 森を再生する会の活動は、水源林創出だけでなく、「生態系サービス」を維持します。防災・減災面にも貢献します。

### 生態系が支える暮らし

私たちの暮らしは、「生態系サービス」と呼ばれる生物多様性を基盤とする生態系から得られる恵みによって支えられています。安全で豊かな生活を営むためには、健全な生態系を維持し、多岐にわたる生態系サービスが総合的に発揮されることが重要です。



▲ 生態系サービスと福利 (図: Millennium Ecosystem Assessment, 2005 をもとに作成)

◆ 森を再生する会の活動は、国連が進める持続可能な開発目標 (SDGs) に参加することになります。



### SDGs 6

すべての人々の水を確保する。

#### ターゲット 6.6

2020年までに、山地森林等の生態系の保護・回復を行う。



### SDGs 15

持続可能な森林の経営。

#### ターゲット 15.4

2030年までに生物多様性を含む山地生態系の保全を行う。

◆ 今後の水源の森づくり

- ① これまでの活動を、社会的キーワードと結びつけ PR、周知していくことも必要。
- ② 水源の森を取り巻く社会課題は、日々変化し、複雑化しつつある。大きな問題解決のためには、他の団体とのパートナーシップも視野に入れておいたほうが良い。

# 会員の声

## 奮闘記

### やっとできた間伐材で作った自作ベランダ

松永純一

- ◆今から約2年前ころになりますが、毎月の間伐作業活動の中で、理事長や仲間から、「今迄は間伐材でまな板を作って、皆さんに配ってきたが何か他に有効活用方法はないですか？」との意見があり、私が自宅のベランダづくりにチャレンジしますと、手を挙げた事が始まりでした。
- ◆直径70センチ・長さ30メートル。切り株の年輪を数えると樹齢70年くらいの立派な桧の大木です。倒れる瞬間は壮絶です。(地響きがものすごい!) その大木を玉切りにして、山で約半年間寝かせたものをいよいよ曳きだしにかかりました。
- ◆どうやって曳き出すか? 切り出し場所から林道までは約200メートルあまりあります。他人の山の立木がいっぱいある急斜面を引きずり下ろすのです。1本の大きさは、長さ1100mm、直径400~600mm、曳き出す本数は12本です。



スキー板改造ソリ

◆その曳き出しには、いろんな道具を考え挑戦してきました。ロープ、荷車、ガス台車、ザル等々の改造品を使いましたが、なかなかうまくいきませんでした。

そして最後に、私の友人が考案したスキー板を改造(写真参照)したソリが一番楽に曳きだせたようです。しかし、狭い山道で

の材木の曳きだし作業は、大変な作業でした。

- ◆軽トラに積み込み林道を走ること約20分、公道を40分程走り地元の製材所で板にしてもらい、自宅まで約1時間半の道のりを経て、保管(乾燥)することにしました。



製材した板の大きさは、幅140mm、長さ1100mm、厚さ50mm、枚数52枚でした。

◆そして乾燥すること約1年、2019.12.12日いよいよベランダ制作に入りました。基礎、柱部分はDIY趣味の人に協力していただき、私は板の磨

き、板の取り付けにかかりましたがなかなかうまくいきません。平行・直角の精度がうまく、出ている中で解った事は、板の乾燥後、製材（仕上げ）をきちんとやらなかったから細かい部分がどうしても合わない現象



が出てしまう状態でした。（約1年乾燥させた板は少し湾曲、又、板厚が上下差異発生）しかし後悔しても仕方ないと思い、コツコツと状況に合わせて作業をやっていく中でだんだんコツもわかり調子も上がってきました。

そして、最初は忙しい中で、短時間での作業の繰り返しでしたが最近のコロナウイルスの関係で各、行事・イベントが中止になり、外出自粛要請が出る中、自宅で集中して作業に打ち込めた結果、3月末遂に完成しました。

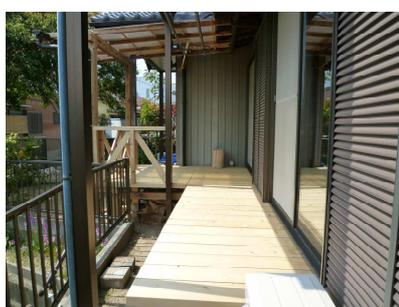
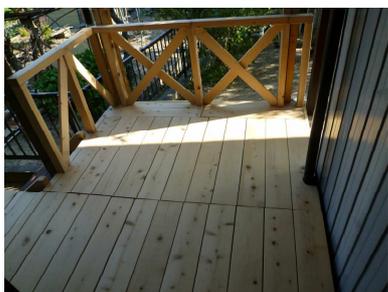
◆今回、国産の材料を使ってベランダを作るのに当たって、これだけの期間と費用がかかると日本の材木が使われない理由の一端がわかりました。

（実際に大半はボランティアでやって頂いたので実費はおさえられた）

山奥の標高800メートル以上の山は、間伐して出来るだけ広葉樹に転換し、水源涵養林にした方が良くとあらためて思いました。

今回苦労もありましたが楽しく体験でき、お気に入りのベランダが完成できて非常に良かったです。関係者の皆様、ご協力大変ありがとうございました。

ベランダ完成写真



## こぼれ話

### 我が家の小さな庭と鳥の活躍

長澤 照代

以前住んでいた千葉県松戸市では、市役所の活動（ひところすぐやる課で名の知れた役所といわれていた）の一つで、記念樹として「実のなる木を」配っていました。その目的は鳥がその実を食べ運んだ種で育った樹木

が、松戸市内にたくさん増えることを願うものでした。

豊橋の我が家にも小さな庭があります。鳥が運んでくれた種から芽が出たバラ、千両、万両、南天、くちなしなどが育って大きくなっています。そしてまたその実を鳥がどこかに運んでいます。今年には桜の木が一本出てきました。将来どんな色の花が咲くか楽しみに待ちたいです。

## さだ まさしさんのお父さんの話



安城 都築 トヨ

先日、何気なくテレビをつけたら番組は倉本聡さんと、さだ まさしさんの対談でした。お二人は自然を大切にされているんですね、時間がなくて唯一聴けたのが……

山の緑には色んな緑がある。杉や桧のように人が植えた木はずっと手入れをして行かないといけない。手入れをしないと豪雨の時に山がくずれてしまう。昔材木商だった、さだ まさしさんのお父さんは、よくそんなお話をされていたそうです。

私は「森を再生する会」で聴いていましたからとても感動しました。私たちはこれまで段戸山、作手、そして今は納庫の山と作業を続けて10数年になります。その間山々の姿、四季の移ろいに魅了されてきました。

## 新型コロナウイルスの恐怖

神谷輝幸

中国発の新型コロナウイルスは全世界を恐怖に陥れています。元気で活躍していた有名人の命を簡単に奪いました。治療薬もなくいつ終わるかわからないウイルスから逃れるため、家から自由に出られない状況が続いています。

考えてみれば、私たちは、これまで将来の人たちのことを考えず、資源を使い果たし、モノを心のままに使い果たしてきました。その結果はご存じの通り地球が壊れかけています。すなわち、地球上の種が絶滅し、生態系が乱れています。地球の温暖化が引き起こす自然災害は毎年激しさを増し、多くの人々が命を失っています。

新型コロナウイルスの出現もその一つの表れかもしれないと考えてしまいます。私たち人間が自分中心で物事を考え暮らしてきた生き方を、祖先が敬ってきたように自然を中心とした生き方に思いを寄せることが問われているような気がしてなりません。

## 告知板



◆（日本熊森協会HPより）  
ニュースです。

愛知県から、支部結成のうれしい

愛知県には、発足当初から応援いただいている会員もおられ、支部が始動しかけたこともありましたが、これまで実質的な活動ができていませんでした。しかし、この度、平子恵美会長が支部長を引き受けてくださることになり、日本熊森協会23番目の支部である愛知県支部結成の運びとなりました。本部から愛知県支部を立ち上げてほしいと言われ、そういう役割だったんだと「やります」と即答してくださった平子支部長は、室谷会長と同世代、副支部長の河西さんは大学生とフレッシュなリーダーでのスタートです。

森を再生する会の会員になってもらいました。今後連携を進めより充実した活動を目指すことを誓いました。

## 令和2年度 水源の森づくり活動計画

- ①6月21日(日) 巻き枯らし間伐 (納庫水源の森)
- ②7月26日(日) 「段戸裏谷原生林」自然観察会  
(設楽町)
- ③8月23日(日) 巻き枯らし間伐 (納庫水源の森)
- ④9月6日(日) 植生調査 (納庫水源の森)
- ⑤9月20日(日) 植樹準備 (納庫水源の森)
- ⑥10月25日(日) 植樹&獣害防止ネット設置  
(納庫水源の森)
- ⑦11月22日(日) 間伐、間伐材搬出 (納庫水源の森)

※コロナウイルスの状況で、計画が変更になる場合があります。

☆令和元年度 NPO森を再生する会へ寄付をいただいた方☆

遠山松枝様 22,000円  
平子恵美様 10,000円

※山を購入する資金として積み立ててまいります。